

「光の道」WG (第11回)の結果について

1. 日 時

2010年11月18日(木)14:00～16:10

2. 参加者

山内主査、北構成員、舟田構成員、吉川構成員

3. 議論の概要

「光の道」構想実現に向けて(骨子(案))について意見交換を行った。

【主な意見】

- 線路敷設基盤の開放について、電柱の地中化が進んでいる中で建物への引込み部分がボトルネックとなっている点など、具体的に記述すべきではないか。
- 基地局の設置に問題があるのは認識しており、インフラを利用しやすいようにする点は合意できると思うが、鉄塔等の共用促進が唯一の解ではないのではないか。
- MVNOの参入促進については、オークションで入札した人にMVNOへの開放を求めるかどうかなど、色々と議論が分かれるのではないか。
- 分岐回線単位の接続料設定のデメリットに「モラルハザード的な利用」とあるが、意図的ではなく、結果として、1分岐だけ利用することになっても駄目なのか。表現を工夫した方が良いのではないか。
- メタルと光の二重投資を解消することが、国民の利益に資するのであれば、巻取りは一日も早く前倒しすべきであり、そのための議論は引き続き行っていくべきではないか。
- 機能分離の内容が具体的に記述されていないので、機能分離の要求水準のようなものをもう少し明確にした方が良いのではないか。
- ファイアウォール規制の実効性確保について、第三者機関を設置するかどうかは議論があるが、従来よりもしっかりチェックすることが分かるようにした方が良いのではないか。
- 「資本分離」は、完全に別会社となり、ボトルネック設備利用の同等性が高まることから、少なくともサービス競争の観点からはメリットがあるのではないか。
- SMP規制については、引き続き検討で良いと思うが、より積極的に検討するというニュアンスが出せないか。また、法律上の仕組みとして、予見性が低いか高いかの判断は慎重に行うべきなので、SMP規制には予見性が低いとの指摘があるくらいではないか。

4. 今後の予定

次回は、11月29日に開催することとなった。